

超人気FP!

— ABC ネットニュース —

深野康彦の 先取り経済NEWS!!

編集・発行 株式会社 アサヒ・ビジネスセンター 2020年5月15日

今月のトピックス 「キャッシュイズキング再び」

国内でも緊急事態宣言の一部解除が決定するなど、悲観一色ではなくなった新型コロナショック。だが、ワクチンや特效薬ができるまでは1~2年かかるともいわれていることから、新型コロナの影響が沈静化するまでは相当の時間がかかることを覚悟しなければならない。筆者の推測あるいは憶測も交えるが、徐々に外出封鎖が解除されたとしても第2波、第3波……がやってくると考えられ、また第1波より第2波などの方が人々の不安度が増すからだ。景気が元に戻るのにも相当の時間がかかることから、個人、企業ともに「キャッシュイズキング」、手元現預金を大幅に手厚くして乗り切るほかはないだろう。政府が様々な給付金制度などを整えているが、そのスピードは緩慢、かつ貧弱(金額が少ない)等々、緊急時ではなく平時に近い対応となっているのはご存知のはず。企業への給付制度の詳細については坂部先生、あるいは商工会議所等にお任せする一方、政府の対応のまずさ等に関してはワイドショーが散々報じているのでこの経済ニュースで述べるつもりはない。この難局を乗り越え生き延びるためには、現預金があればほとんどの事に対応可能(罹患は除く)ということ忘れてはならない。

筆者も零細企業の端くれなので、売り上げ等は相当のダメージは否めない。1日も早く景気の復活を望みたいのだが、相手は目に見えないウイルス。しかもワクチンや特效薬がないのだから、短期で終息すると考えること自体が無意味といえる。問題は政府の対応が白か黒しかないことに憤っている。筆者もかなり仕事がなくなっている(期限未定の延長もある)が、会社の売り上げベースでは3~4割前後の減収になる。この減収が長期化することを予測しているが、減収割合が少ない、いわゆるグレーゾーンになることから給付等の対象にはならないのだ。給与の減額も当初の給付の対象にならず、どっちつかずという状況に陥っている。10万円の一律給付に変更したのは良いが、1回きりではなく数度は行わなければならないだろう。数度となれば「財源は？」と声高にいう御用専門家等が出てくるが、今は経済有事だということを肝に銘じなければならないのだ。政府に助けをもらおうとは日頃から考えていないが、少なくとも税金を納めているのだから、世にあるグレーゾーンの会社や家計を見過ごす政策は看過できないのである。

愚痴はこれくらいにして、生き残るためには何をすべきか。会社も個人も現預金を手厚く保有するしかないとは筆者は考えている。不要不急の外出は控えてと首長が散々述べているが、乗り越えるためには不要不急の支出は控えよということである。中小零細企業の経営者などには株式投資好きが多いといわれるが、企業経営でリスクを取っているのだから、個人(家計)の資金管理ではリスクを取るのを戒めるべきである。全てとは言わないが現金化できるものはなるべく多く現金化しておくべき。損失を被るものがあったとしても、また取り返す機会はやってくる。設備投資等も最低限に留めておくべきだろう。個人もこれから収入減が襲ってくることだろう。収入減は大幅なものと推測され、元の収入に戻るまでかなりの時間を要するはず。リーマンショック後、民間企業の平均賃金がショック前に戻るまで9年もかかったのである。昨年、老後資金2000万円問題が騒がれたが、今は老後の準備をするより目の前の難局を乗り越えることに全精力を使用すべき。何度も述べるが「キャッシュイズキング」、可能な限り現預金を手厚く保持し、不要不急の支出や投資は控えることが重要なのである。命もさることながら、企業も個人も経済的にも生き延びる(破綻しない)ことを最優先として行動すべき時なのである。